

劇工房MAKO企画プロデュース

「さくらシリーズ」上演YEAR 第二章

空間演出、花道家・小川珊鶴
衣装、立体美術家・井戸えり
振付、志乃舞優
作曲、石山一郎
初演スタッフに加え、今回新たに
仏教版ゴスペルとも言える「聲明」との
コラボレーションが紡ぎ出す
愛と感動の物語を新キャストで待望の再演！

春城
沈月

作・演出

空間演出

眞己 薫

小川 珊鶴

井戸 えり

志乃 舞優

石山 一郎

山口 ひな

衣装

振付

作曲

題字



2010年3月26日(金) 19:00

3月27日(土) 19:00

3月28日(日) 18:30(開場は30分前)

浄土宗 宝亀山 相應寺本堂

さくら城に沈む月

「縁」～ふたたび～

劇場を飛び出し「もっと身近にお芝居を!」をコンセプトに、喫茶店や倉庫、ギャラリーなどで公演してきた劇工房MAKO企画は、いつかお寺での公演を企画したいと考えていました。今回、初演から三年たった今もなお、熱い再演要望をいただいている「さくら城に沈む月」を浄土宗・宝亀山 相応寺で上演させていただく運びとなったのは、お導きなのかもしれません。

浄土宗開祖である法然上人と、奇遇にも似た生い立ちの主人公・一真。戦に敗れても「恨みは恨みを生むのみ、恨みを捨てて生きて欲しい」と願う法然上人の父、そして一真の母の願い。物語の根底に流れるものは、愛・憎・生・死…人間と切っても切り離せないものとの葛藤。

法然上人の生きた平安・鎌倉の世、そしてこの物語のモチーフとなった戦国の世から現代へ、時代を超えて人間の真の優しさとは、強さとは、愛とは何かを問いかける物語を、満ちゆく月と弥生の桜が彩る空間と共に、ぜひお楽しみください。

(劇工房 MAKO企画代表 岸本昌子)

あらすじ

時は戦国。伊勢の国は「鬼の義定」と恐れられる日永家と、尾関家の勢力争いが盛んであった。

舞台はその争いとはまるで無縁かのように、心優しい城主を慕う穏やかで小さな「さくら」という町。

日永家の姫、弥生は初恋の人を手にかけてた父親に反抗するため、敢えて戦国の世には珍しく優しい男と評判のさくら城主、高津秀則を選び嫁いで来た。秀則は弥生を大層気に入り、また弥生も秀則の優しさに心を寄せていった。しかし姫の輿入れが決まってからと言うもの、秀則と兄弟のように育ってきた一真の様子がおかしい。一真の育ての親である忍の頭、雲景はそれをいち早く感じ、一真の弟分である朱鷺に探りを入れさせる。

時を同じくして一真の元に、村瀬と言う男が尋ねてきた。村瀬は一真を、日永義定に滅ぼされた野田家の嫡男「真嗣」ではないかと問いたです。一真は人違いだと言うが…

弥生の輿入れ、村瀬の出現から、すべての「縁」は紡がれ、もつれ、ほぐれてゆく。三重県四日市市桜地区の「一生吹山の歴史」をもとに描かれた、人間の優しさとは強さとは愛とは何かを悩み、もがき苦しみながら生きて行くさまざまな「縁」の物語。

スタッフ

作・演出 眞己 薫
 空間演出 小川珊鶴(平成芸術花院長)
 衣装 井戸えり
 振り付け 志乃舞優
 照明 金子康雄
 作曲・音響 石山一郎(One Music Studio)
 題字 山口ひな

キャスト

伊藤 整子	北 香里	北川 慶彦
杉原 伊織	高橋 奈々江	高橋 幸誠
中田 リナ	福田 敏一	松山 祐士
望月 森央	山田 達也	吉本 真二

(五十音順)

「聲明」黒亀会

日時 2010年3月26日(金) 19:00
 27日(土) 19:00
 28日(日) 18:30(開場は30分前)

入場料 一般 前売り 2,500円/当日 2,800円
 学生 前売り・当日共 2,000円(MAKO企画のみの販売)

チケット取り扱い 劇工房MAKO企画
 チケットぴあ
 0570-08-9999(Pコード:401-196)
 1月18日(月)発売
<http://pia.jp/t/chubu/>
 お近くのチケットぴあスポット、ファミリーマート、サークルK、
 サンクスでも直接お求めいただけます。

お問い合わせ 劇工房MAKO企画 090-1752-0168(浜島)
<http://www.md.ccnw.ne.jp/makokikaku/>

会場 浄土宗 宝亀山 相応寺本堂

※駐車場はありませんので、公共交通機関でご来場ください



〒464-0045
 愛知県名古屋市中種区
 城山町1丁目47番地
 TEL 052-751-0435
 地下鉄東山線 寶王山駅下車
 2番出口徒歩約10分

協力：桜郷土史研究会 相応寺